

〇ー２番 要約

(平成26年7月現在)

1 被害者

平成8年10月生。接種時中学校3年生(14歳)、聴取時17歳。大阪府在住。

2 ワクチン接種前の健康状態等

健康。学校を休むことはほとんどない。バレーボール部をやめてからは美術部所属。

3 接種

サーバリックス 3回 (H23.9.28、H23.10.28、H24.3.31)

4 経過概要

平成23年 9月初め 中学校から子宮頸がんワクチンについての案内受けとる。

9月28日 サーバリックス接種1回目。

10月28日 サーバリックス接種2回目。

平成24年 3月31日 サーバリックス接種3回目。

5月 右指の関節痛・腫れ強くなる。リウマチ検査は陰性。

平成24年 夏・秋 右股関節の痛みで足がしびれる。

平成25年 7月 手足のしびれを訴え、救急外来受診、脳CT異常なし。

夏頃より 学力低下、記憶力低下。

12月 3日 阪大病院にて「痛みは気のせいだ」と言われ、精神的に不安定になる。

平成26年 2月 頃 11日欠席(高2)。倦怠感が強く、20時間/日の過眠。

3月10日～3月14日 入院(関東の病院)

4月30日～5月 1日 入院(関東の病院)

5 現在の状況・症状

平成26年6月頃より、民間療法により、痛み、しびれなどの症状は軽快している。

6 受診医療機関

5か所

7 所見・診断等

脳MRI、血流検査により高次脳機能障害。

8 救済制度の申請 申請していない。

〇－２番 母（大阪府東大阪市）

（平成２６年７月現在）

1 はじめに

私は、東大阪市に住む１７歳の娘（平成８年生まれ）の母です。

娘は、平成２３年９月から平成２４年３月にかけて、子宮頸がん予防ワクチンのサーバリックスの投与を３回受けました。その後、娘は、子宮頸がん予防ワクチンによる副反応の被害を受けていますので、以下、お話しします。

2 ワクチン接種前の状況

娘は、特に大きな病気をしたこともない元気な子で、学校の出席状況は、たまに風邪をひいたときに２日ほど休むことがある程度で、それ以外の理由で休んだことはありませんでした。

小学校の時は、３年生の時から３年間ソフトボールを続けていました。小学校６年生の運動会では、男の子をさしおいて応援団長をさせてもらい、一生懸命練習していました。負けず嫌いで頑張り屋の明るい女の子でした。

中学校に入ってからバレーボール部に所属して頑張っていました。スポーツで酷使しすぎたことと、骨の間のひずみがあったことで、右肩をいためてしまい、ドクターストップがかかってしまいました。

その後は、美術部に所属して、大好きな絵を描いていました。

以上のとおり、スポーツが原因で右肩をいためて整形外科にかかったことはありますが、日常生活・学校生活には何ら支障はありませんでした。

3 ワクチン接種の経緯

平成２３年９月頃、通っていた中学校から、子宮頸がん予防ワクチンの接種を勧める手紙をもらいました。東大阪市保健所が発行した書面だったと思います。

全額公費助成があり無料で受けられて、子宮頸がんを予防できる夢のようなワクチンだと思いました。ただ、公費助成は期間限定のもので、平成２３年９月末までに一回目の接種をしないと、助成期間中に３回全部の接種を終えられないということでした。

私は学校から予防接種を受けるようにという勧めがあったこと、今なら無料で予防接種を受けられ子宮頸がんを防げると思ったことから、娘に子宮頸がん予防ワクチンを受けさせることにしました。

4 ワクチン接種時

学校からもらった書類の中に、子宮頸がん予防ワクチンの接種ができる医療機関一覧のようなものがありましたので、その中から自宅近くの家出医院を選び、サーバリックスを三回接種させました。

接種日は、平成２３年９月２８日、同年１０月２８日、平成２４年３月３１日でした。ワクチン接種にあたり、医師や看護師、薬剤師から、特段の説明はありませんでした。学校からもらった文書と予診票の記載を読んだのと、ワクチンに関するリーフレットを渡されたくらいです。

接種の際は、私も付き添っており、接種後３０分ほど椅子に座って様子を見てもらって

ましたが、意識を失うようなことはありませんでした。

ワクチン接種時に、特に強い痛みを感じることはなかったようで、筋肉注射なので普通の注射よりはやや痛いという程度でした。

3回の接種のたびに、注射部位にだるくて痛い感じが残りました。この症状は2日から3日ほど続きました。

また、1回目の接種の後から、右手指の関節に痛みが生じていたようですが、娘もまさかワクチンが原因だとも考えていませんでしたし、まだ症状がそれほどひどくなかったこともあって、私に右手指の痛みのことは話してきませんでした。そのため、2回目、3回目もワクチンの接種を受けました。

5 ワクチン接種後の症状の経過

(1) 右手指の関節痛・腫れ

3回目の接種を受けた後の平成24年4月頃から、右手指の関節痛がひどくなり、同年5月からは右手指の関節が赤くなって腫れ、指関節が上と横に盛り上がったような状態になって腫れが引かなくなりました。

以前より痛めた右肩を診てもらっていた貴島病院整形外科で診ていただいたのですが、貴島病院からは、関節が柔らかいからではないかと言われたただけでした。

しかし、指の関節が明らかに腫れて盛り上がっているのも、私はおかしいと思い、平成24年5月31日頃、五島整形外科クリニックを受診し、リウマチの検査を受けました。結果は陰性で、インナーマッスルを鍛えるしかないのではないかとされましたので、これまでにかかっていた貴島病院で、インナーマッスルを鍛えるためのリハビリを受けることにしました。

(2) 股関節等の痛みの出現

平成24年夏と秋には、娘は、今度は右股関節の痛みを訴えました。右股関節が痛いために、歩行もスムーズにできず、右足をひきずるようにして歩くことがありました。

そのため、平成24年冬頃、貴島病院整形外科でレントゲンを撮ってもらったのですが、原因ははっきりせず、やはり関節が柔らかいことが原因ではないかということで、インナーマッスルを鍛えるリハビリの回数を増やしました。

他にも、娘は、肩や膝、足首等の痛みを訴えており、痛みの場所はその時によって違いました。

(3) 手足のしびれの出現

平成25年7月頃、娘が高校から帰ってきた後、学校で手がしびれたと言いました。症状はいったんおさまっていたようですが、その日の夜、娘が、また手がしびれてきて、今度は足先もしびれてきたと言いました。

私は、しびれという症状を聞いて、脳に原因があるのではないかと思い、救急病院などを教えてもらえる電話番号に電話をかけて相談しました。すると、近鉄瓢箪山駅近くにある若草第一病院を紹介してもらえ、ちょうど当直の医師がいらっしゃるということだったので、救急外来を受診しました。

若草第一病院では脳のCTを撮ってもらいましたが、異常はないということで、症状が一週間ほど続くようなら、整形外科で末梢神経の検査を受けてみるようアドバイスを

受けました。

その後も娘の手足のしびれは続いてはいたのですが、20～30分ほどしびれたと思ったら止むという具合で、1～2週間症状があったと思ったら、またしばらく症状が出なかったりという具合でしたので、結局、整形外科での末梢神経の検査を受けないままとなりました。

(4) その他の症状

そのほか、娘は、ワクチン接種後から、倦怠感、めまい、立ち眩み、ひどい頭痛、ニキビの悪化といった症状を訴えたり、他の生徒は特に不具合を感じていない程度の黒板の光の反射を眩しいと言うようにもなりました。風邪を引いても以前より治りにくく熱も下がりにくくなりました。

娘は、3回目のワクチン接種直後に高校に進学し、高校1年生の時は真ん中くらいの成績でしたが、その後記憶力が低下し、高校2年生の夏（平成25年夏）頃からは、成績も下がってきました。

(5) ワクチンが原因ではないかと思った経緯

平成25年秋頃だったかと思いますが、ニュースで子宮頸がん予防ワクチンによる副反応の問題を知りましたが、不随意運動と失神が中心の報道でしたので、娘の症状がワクチンの副反応だとすぐには思いませんでした。

しかし、よくよく考えてみれば、身体のあちこちの痛みも、手足のしびれも、眩しがる、立ちくらみその他の症状も、全て子宮頸がん予防ワクチンを受けた後に出始めた症状だったので、だんだん、娘もワクチンの副反応ではないか考えるようになりました。

そして、平成25年10月頃、東大阪市の保健所に問い合わせをし、厚生労働省がワクチン後の痛みについて診てもらえる医療機関を紹介しているホームページを教えてもらいました。

ワクチン後の痛みに対応する病院で診てもらうためには、紹介状が必要でしたので、まず、かかりつけでありワクチン後の症状も診てもらっていた貴島病院に紹介状の発行をお願いしました。しかし、ワクチンの副反応ではないかという話をすると協力的でなくなり、ワクチンを打ってもらった病院で書いてもらうようにと言われました。

そこで、今度は、ワクチンを打ってもらった家出医院に紹介状を書いてもらうことにしました。家出医院では一応紹介状を書いてくれるには書いてくれましたが、ワクチンの副反応の話をすると、そんな人他にはいないのにと嫌みを言われました。

(6) 大阪大学医学部附属病院麻酔科受診

平成25年12月3日、ワクチン後の痛みに対応する医療機関としてホームページで紹介されていた大阪大学医学部附属病院（以下、「阪大病院」といいます。）麻酔科の予約をとることができましたので、阪大病院を受診し、柴田政彦先生に診ていただきました。

子宮頸がん予防ワクチン後の痛みについて対応してもらえる病院だということで、娘の症状の経過などを詳しく聞いて下さるのかと思ったら、先生の対応は全く期待とは異なるものでした。

柴田先生は、私たちの話など聞くこともなく、医師の10人に8人は痛みは気のせい

だと言います、患者が安心するから薬を出すだけで効果はない、病院は金儲けのためにCT等の検査をするだけ、一回の検査をするだけで何万円も儲かるんですよ、検査入院をして病理解剖で組織を切り取って、その切った部分の痛みを耐えたり感染症の心配をしますか、とおっしゃったのです。

厚生労働省健康局が、子宮頸がん予防ワクチン接種後の痛みについて診察をする医療機関として、全国11カ所定めている医療機関の一つだったのに、このような話をされ、私も娘もとても傷つきました。

特に娘は、阪大病院を受診した後、痛みなどの症状を感じるのは自分がおかしいからじゃないのかと思うようになり、精神的にも不安定になってしまいました。

柴田先生からは、一応リウマチの検査を受けてみたらという話もあり、平成25年12月18日にリウマチ検査の予約はしていたのですが、娘は阪大病院にはもう行きたくないと言い、結局受けませんでした。

柴田先生の診察も、平成26年1月28日に予約してはいたのですが、娘は結局受診せず、私だけが病院へ行きました。私は、柴田先生の言葉で娘が傷ついたことを、柴田先生に直接伝えました。柴田先生は、そういうつもりではなかったと謝罪されましたが、ワクチンの副反応なんていうことはあり得ないのだ、ニュースで問題になっている不随意運動などもワクチンの副反応というのはおかしい、心の問題だと主張されました。

何故そのようなことが言い切れるのだろうかという疑問に思いましたが、これ以上柴田先生とやり合っても仕方がないので、次回以降は予約せず、以後阪大病院は受診させていません。

なお、阪大病院を受診した後に、元々のかかりつけの貴島病院に、阪大病院を受診した経過も含めお話ししたところ、貴島病院の先生からは、阪大でダメなもん、うちで検査はできないと言われてしまいました。

(7) 症状の悪化（平成26年1～2月）

平成26年1～2月頃は、娘の症状が特にひどくなりました。

1月にインフルエンザにかかったことがきっかけになったのかわかりませんが、今までにましてひどい倦怠感、頭痛が続き、一日中寝ているようなこともありました。日によっては1日に20時間も寝ていることがありました。そのため、2月は11日も高校を欠席しなければならなくなり、学校に行けた日でも遅刻が増えました。

生理不順で1ヶ月半生理がなかった後、2月に来た生理では生理痛がものすごくひどく、夜中の3時まで下腹部をさすっていないと痛み止めの薬も効かない状態で眠れませんでした。

記憶力の低下だけでなく、会話の中で言葉が出ないことが増えました。そのため、平成25年（高校2年生）の夏以降成績は下がっていましたが、高校2年生の3学期末の時点では1つ単位が足りず、進級できないような状態になってしまいました。なお、後述のとおり3月に受診した病院に出してもらった診断書を学校に提出し、学校側に配慮をしてもらった結果、ひとまず高校3年生には進級させてもらえ、追認考査を受けさせてもらえることにはなりました。

(8) S病院入院と診断

平成26年1月に、全国子宮頸がん被害者連絡会に相談し、子宮頸がん予防ワクチン

後の副反応についてきちんと診てもらえる関東地方の病院（「S病院」といいます。）を紹介していただきました。

そして、学校の期末試験後の休みを利用して、平成26年3月10日から同月14日の間、S病院に検査入院しました。

S病院では、脳のMRI検査、脳の血流検査、髄液検査を受けました。髄液検査を受けた後は、ひどい頭痛があったのですが、学校の追試を受けなければならなかったため3月14日には退院しなければなりませんでした。

MRIでは海馬に軽度の炎症反応があること、脳の血流検査では脳の下の方の血流が悪いことがわかり、ワクチン関連生の脳炎だと言われました。

最終的に、「高次脳機能障害」という診断を受けましたので、その診断書を高校にも提出し、高校3年生への進級について配慮してもらえた次第です。

また、平成26年4月30日～同年5月1日にも、連休を利用して、今度は心理検査のため、S病院に検査入院しました。

S病院からは、ステロイド・パルス療法を勧められたのですが、ニュースなどで知る症状の重い方のように不随意運動がある訳ではないですし、さらにステロイドという薬を娘の身体に入れることに躊躇してしまい、結局、ステロイド・パルス療法は受けないことにしました。

それ以来、S病院は受診していませんので、髄液検査と心理検査の結果は聞くことができないままとなっています。

6 現在の症状

平成26年5月頃、被害者連絡会で知り合った被害者の方から、ある整体の先生をご紹介いただき、それ以来、次の民間療法を受けています。

副腎を鍛える整体の施術（1万円/回、2週間に1回）

核酸と水素のサプリメント（3万円/月）→その後ミドリムシ、ビタミン（1万円/月）に変更

マコモ茶、麦芽等（1万円/月）

デトックス効果のある水（5000円/ボトル）

その効果があってか、平成26年6月頃より症状は軽くなっており、学校にも休まず朝から行くことができるようになってきました。朝も起きることができるようになっています。

7 学校生活

(1) 通学

高校への通学手段は、自転車で4キロ、又はバスと電車でした。

しかし、症状が出てからは、通学の負担が大きく、私が車で送迎しています。

最近は調子がよいので、時々バスと電車で通学することもあります。

(2) 進級・進学

高校1年生の時は真ん中くらいの成績だったのですが、高校2年生（平成25年）の夏頃から記憶力低下等で成績が落ち、高校2年生の学年末考査で、進級判定にひっかかってしまいました。

平成26年1月から具合が悪く欠席も増えていたこと、記憶力が低下したことにより、1教科単位を取ることができなかったのです。

学年部長・担任には、高次脳機能障害の診断書を提出し、今の病状を考慮していただくようお願いし、平成26年の夏前に追認考査を受け、高3に進級できることとなりました。

将来は大学の看護学部へ行くつもりで、現在の高校を選んだのですが、成績が下がってしまったことで、美容方面へ進路の変更を考え、専門学校へAO入試の願書を出したところです。

8 心情等

危険のないワクチンを受けられるものと信じており、国が勧めておいてこのような副作用が出るなんて、あってはならないことです。

現在、娘の症状は軽快してきていますが、今後症状が再び悪化しないとも限らないという不安はぬぐえません。